

# 地域基礎「スペイン史の諸問題」〈I〉

＊ はじめに——「記憶」と「忘却」

---

＊ イベリア半島の地理的環境

＊ アルタミーラからローマ帝国まで

＊ 西ゴート王国の時代

＊ イスラーム・スペイン

＊ キリスト教スペイン

＊ カトリック両王の時代

＊ カール5世の時代

＊ フェリーペ2世の時代

# 地域基礎「スペイン史の諸問題」〈II〉

- ✳ 17世紀のスペイン
- ✳ 啓蒙の世紀
- ✳ 革命と反革命の時代
- ✳ 第一共和政
- ✳ 王政復古体制
- ✳ 第二共和政
- ✳ スペイン内戦
- ✳ フランコ体制
- ✳ 民主化から現在まで

# はじめに——「記憶」と「忘却」

- ✳ 歴史学とWHY：事件・革命の因果関係、制度的変容・歴史的発展の道筋
- ✳ 歴史学とHOW：人びとの生きかた、「人と人の結びつき」、「心性」
- ✳ 記憶の歴史学：「大きな物語」、「国民の物語」

---

「忘却、歴史的誤謬と言ってもよいでしょう。それこそが一つの国民の創造の本質的因子なのです。だからこそ、歴史学の進歩は往々にして国民性にとって危険なのです。」(E.ルナン『国民とは何か』、1882年)

「絶対的な価値や神話のようなものに対抗するためにも、常に慎重さや警戒心を持ち続けるという知識人の役割は続いているのです。」(マリア・クリステヴァ、ブルガリア生まれの小説家・思想家)

## [資料]

- \* 遅塚忠躬『フランス革命——歴史における劇薬——』（岩波ジュニア文庫295、岩波書店、1997年）

<189-190頁>

### [歴史を学ぶことの意味]

- \* このように考えてくると、私たちは、歴史を学ぶことの意味について、あらためて整理することが必要だと思います。歴史を学ぶことには、大づかみに分けて、三つの意味、あるいは三つの目的があるでしょう。
- \* 第一の意味は、過去から現在までの変化の筋道を知って、現在を理解するうえでの参考にする、ということです。フランス革命のような変革期を勉強する場合には、この変化の筋道を考えると言うことの意味が大きくなるでしょう。この場合、変化の筋道を知るためには、変化の原因と結果を検討すること、つまり、歴史における「なぜ Why」を考えることが中心になります。本書で、私が歴史の底流にある傾向（筋道）を重視し、また、つねになぜそうなったかという問題を立てたのも、そのためです。
- \* 第二の意味は、現在の我々とは全く違った過去の人びとの生き方を知って、いまのわれわれの生き方を反省する、ということです。たとえば、中世の人びとの心のもち方や人間関係のあり方などを勉強して現在と比べるというようなことで、最近、「社会史」などという名前でおこなわれている研究がそれです。この場合、過去の人びとの生き方を知るためには、「どのように How」を考えることが中心になるでしょう。How を考えることが、Why を考えることと同様に重要であることは、言うまでもありません。
- \* 第三の意味は、歴史のなかに生きた人間たちの偉と悲慘とを知って、それに共感し、感動する、ということです。本書で私がめざしたのは、フランス革命の大きな筋道を知ってもらうことと同時に、革命の偉大さと悲慘を通じて、人間の偉大と悲慘について皆さんに思いをめぐらしてもらうことでした。この私の試みが、少しでも皆さんの参考になれば、本書の目的は達せられたことになります。

## [基本参考文献]

- \* 網野善彦『歴史と出会う』(新書Y、洋泉社、2000年)
- \* 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』(PHP新書、PHP研究所、2004年)
- \* 成田龍一『〈歴史〉はいかに語られるか—1930年代「国民の物語」批判』(NHKブックス、日本放送出版協会、2001年)
- \* ジョン・H・アーノルド(新広記訳)『歴史』(一冊で分かる、岩波書店、2003年)
- \* E.H.カー(清水幾太郎訳)『歴史とは何か』(岩波新書、岩波書店、1962年)
  
- \* 望田幸男ほか『新しい史学概論[新版]』(昭和堂、2002年)
- \* 福井憲彦『歴史学の現在[改定新版]』(放送大学教材、放送大学教育振興会、2001年)
- \* 福井憲彦『歴史学入門』(岩波テキストブック、岩波書店、2006年)
  
- \* 二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』(平凡社ライブラリー、平凡社、1986年)
- \* 歴史学研究会編『歴史学における方法的転回』(青木書店、2002年)
  
- \* 近藤和彦ほか『現代の世界史』(山川出版社、2003年)
- \* 大下尚一ほか『西洋の歴史[近現代編]増補版』(ミネルヴァ書房、1998年)
- \* ジョゼップ・フォンターナ(立石博高・花形寿行訳)『鏡のなかのヨーロッパ—歪められた過去』(平凡社、2000年)
  
- \* 望田幸男ほか『西洋近現代史入門[増補改訂版]』(名古屋大学出版会、1999年)
- \* 世界史小辞典編集委員会編『世界史小辞典[改定新版]』(山川出版社、2004年)

# フランコ体制と歴史学の歪曲

## ＊ La Guerra Civil Española という言葉

〈スペイン市民戦争〉〈スペイン内戦〉〈スペイン内乱〉

〈スペイン戦争〉〈スペイン革命〉

※固有名詞と一般名詞: **civil** の意味

## ＊ フランコ独裁体制と歴史学

「一つにして偉大で自由なスペイン」

ナショナルカトリシズム(nacional-catolicismo)

※宗教(カトリック)と言語(スペイン語)

※帝国(Imperio)の記憶

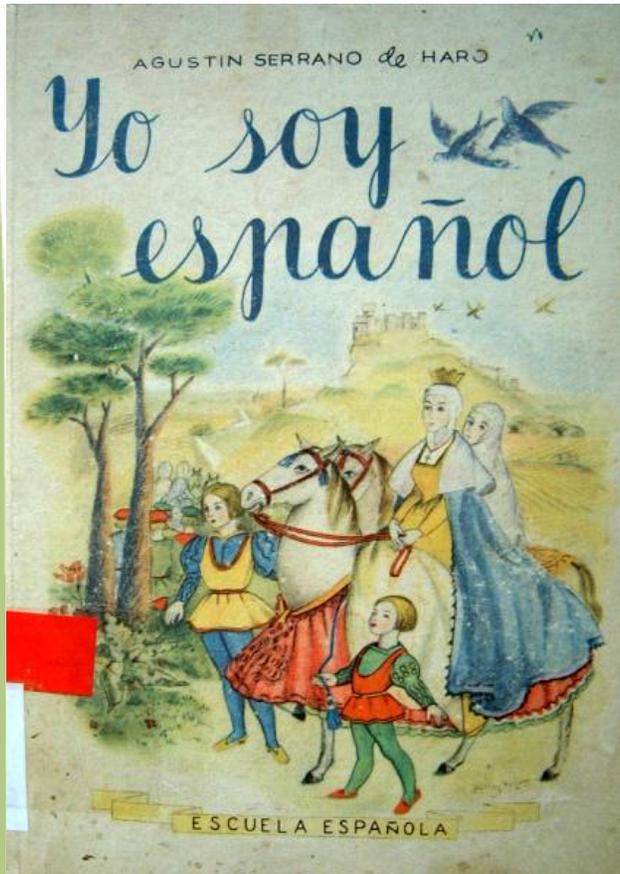
「おまえがスペイン人なら帝国の言語をしゃべれ！」

## ＊ 体制のプロパガンダとしての歴史学

「過去の認識は、社会の将来のメンバーの性格と気質を培う。」

# Yo soy español

(Agustín SERRANO DE HARO)

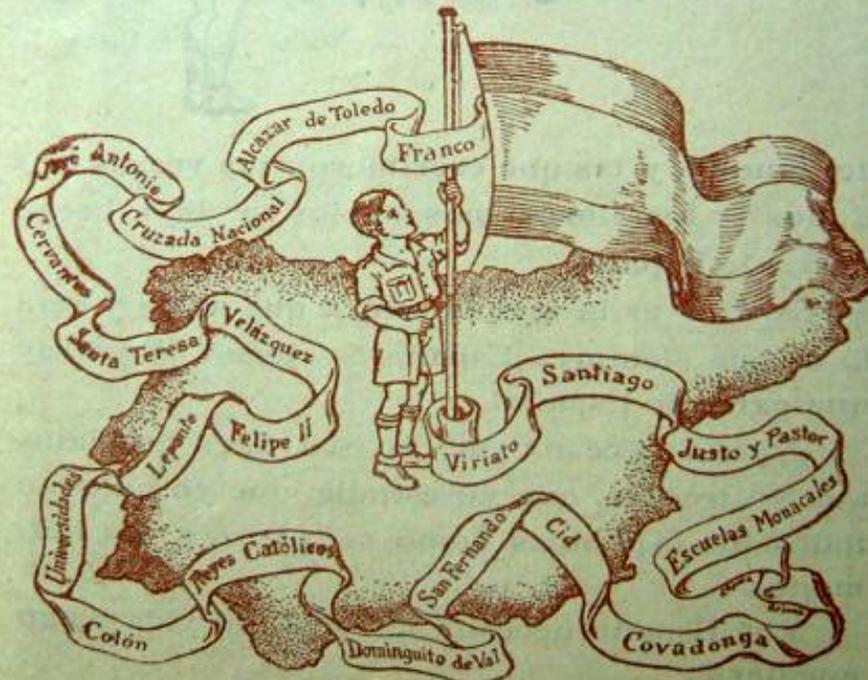


- \* Viriato
- \* Santiago
- \* Justo y Pastor
- \* Escuelas Monacales
- \* Covadonga
- \* Cid
- \* San Fernando
- \* Dominguito de Val
- \* Reyes Católicos
- \* Colón
- \* Universidades
- \* Lepanto
- \* Felipe II
- \* Velázquez
- \* Santa Teresa
- \* Cervantes
- \* José Antonio
- \* Cruzada Nacional
- \* Alcázar de Toledo
- \* Franco

## ¡Soy español!

Y los millones de hombres que murieron por España y por la fe de Jesucristo, y los que hicieron las catedrales y los castillos, y los que descubrieron América son mis abuelos.

Y las manos que hicieron la «dama de Elche», y las que pintaron los cuadros más hermosos





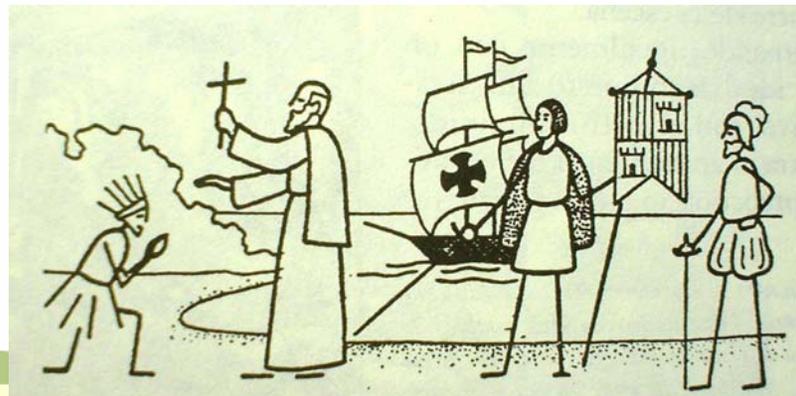
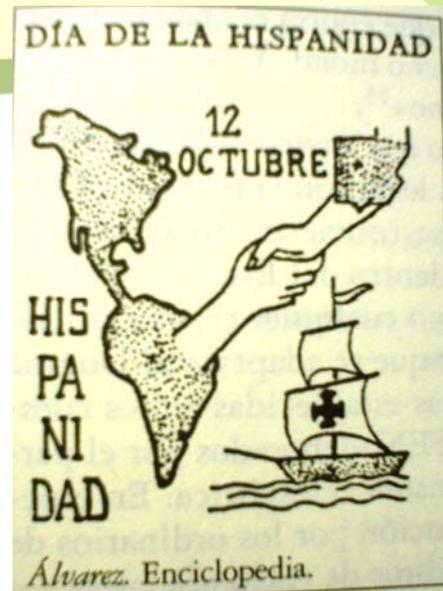
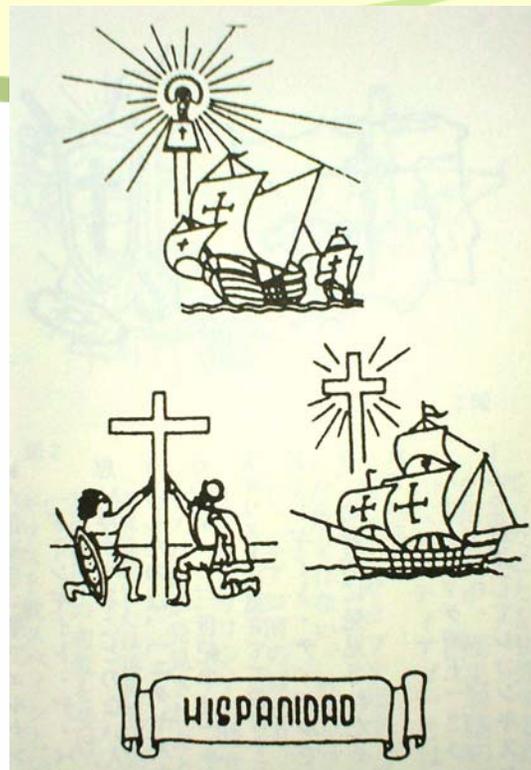
del mundo, y las que escribieron los versos más lindos y los libros más sabios se han hecho tierra de España.

España es la misma ahora que antes y será la misma siempre. ¡España es eterna! ¡Y yo soy una parte de España!

España necesita que yo sea buen cristiano, que yo trabaje, que yo estudie, que yo quiera a todos los españoles como se quiere a los hermanos.

Y si España necesita mi vida, mi vida tengo que darle.

conquista cristiana.



# 「共存(convivencia)」のための歴史認識

## 1992年の3つのイベント

- ＊「アメリカ発見(Descubrimiento de América)」500周年  
⇒「二つの世界の出会(Encuentro de Dos Mundos)」
- ＊「アル・アンダルス(Al Andalus)」500周年
- ＊「セファラー(Sefarad)」500周年

# 三つの文化の 庭園 (マドリード市郊外)

